

腦・神經・精神部門

21 神經科精神科

22 腦神經外科

23 麻醉科蘇生科

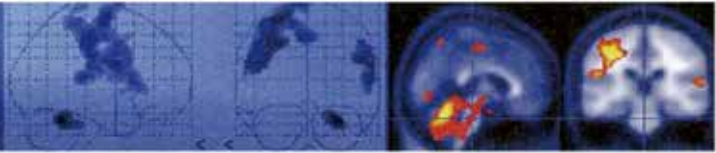
21

脳・神経・精神部門

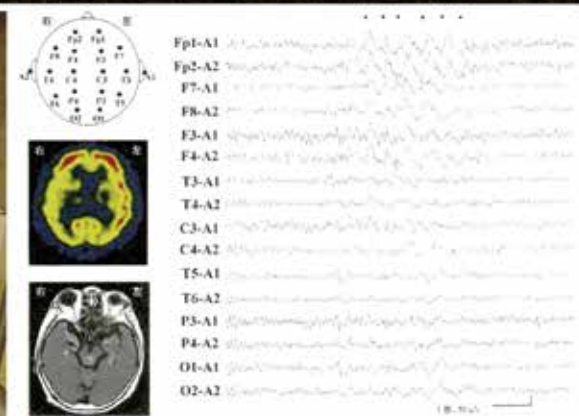
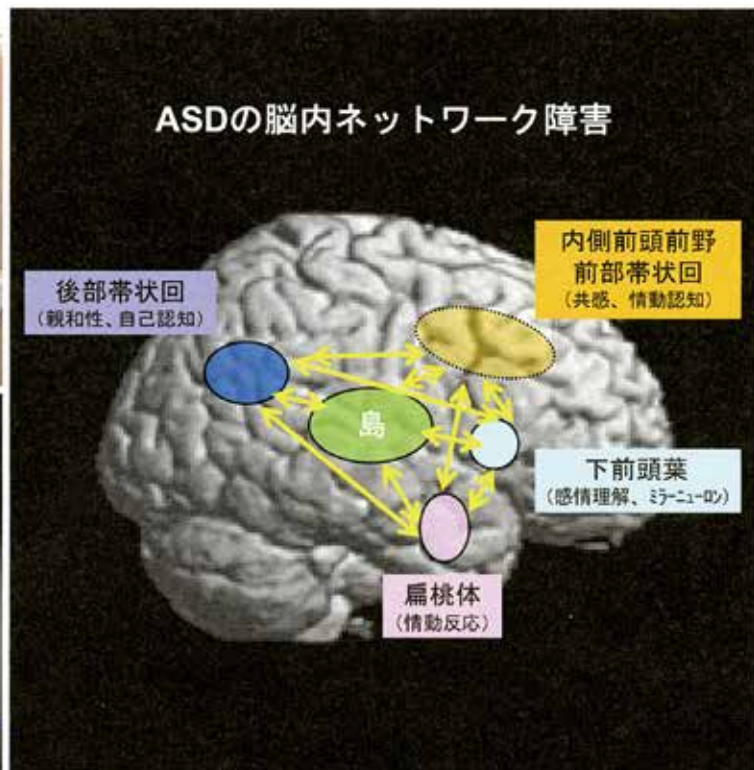
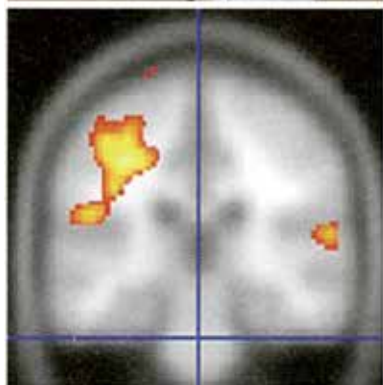
神経科精神科



Psychiatry



21世紀は「脳の時代」と言われており、これからの精神医学はますます魅力的なものとなるでしょう。新たな治療薬の臨床応用も進み、画像や分子生物学的手法を用いた研究など、脳科学の爆発的な進展に伴い、精神疾患の病態メカニズムは日進月歩で解明されつつあります。WHOの報告によると、外来患者の1/4にうつ病や不安障害、アルコール症などの心の問題があると概算され、また、児童・思春期、老年期、緩和ケア、リエゾンコンサルテーションなど精神科医療が扱う領域は広がるばかりで、精神科医に期待される社会的使命はますます大きなものとなっています。新たな時代を迎えつつある精神科医療を我々と共に盛り上げていきましょう。



21 神経科精神科

科 長 (研修統括者)

小坂 浩隆
出身大学 福井医科大学（平成10年卒）
専門分野 神経発達症、脳機能画像学、児童精神医学

教室の 内容と特色

(1)教室の指針

生物学的・社会心理学的な包括的視点から診断・治療をバランス良く実践する。さらに、日々の臨床から生じた疑問（リサーチクエスト）を自由闊達な雰囲気の中で討論し、臨床研究へ発展させる。

(2)診療内容

気分障害・統合失調症・神経症など精神科一般、神経発達症、児童・青年期精神疾患、睡眠障害、てんかん、認知症関連疾患、せん妄、器質性精神疾患

(3)診療の特色

日本精神神経学会専門医制度（基幹施設として認定済）に基づく研修プログラムにて若手精神科医の育成に取り組んでいる。当院を基幹施設とし、連携施設は福井県嶺北・嶺南地域の主要医療機関である福井県立病院および杉田玄白記念公立小浜病院、単科精神病院であり急性期治療から社会復帰まで広くカバーする松原病院、認知症の専門医療機関である福井県立すこやかシルバー病院の4病院である。これらの医療機関をローテートすることで、専門医に必要な経験をもれなく積んでいくことができる。

当院では、総合診療機能を有する医療機関である特徴を生かして、身体疾患合併症診療、一般診療科患者の精神疾患合併症診療（リエゾン精神医療）および高度先駆的医療を目指した精神科診療に努めている（日本総合病院精神医学会専門医研修施設）。外来は、一般の外来診療のほか、神経発達症、睡眠障害、老年期精神疾患、てんかん、児童・思春期精神疾患など各領域を専門とする医師が診療にあたっている。入院治療では、院内他科と密接な連携を持ち、緩和ケアチーム、認知症ケアチーム、精神科リエゾンチームの一員として活動しているほか、PETやMRIなどの先進的医療機器と高度な医療技術を備えた経験豊かなスタッフによるチーム医療を実践している。麻酔科蘇生科との共同で電気けいれん療法（ECT）も積極的に行っている（日本総合病院精神医学会ECT研修施設）。ビデオモニター可能な終夜睡眠ポリグラフィ専用個室を整備し、てんかんや睡眠障害を対象とした検査目的の短期入院も行っている。薬物治療では一般的な向精神薬を中心とし、治療抵抗性統合失調症に対するクロザリルの使用が認められている施設（CPMS登録医療機関）であるほか、漢方薬や各種治療薬も用いている。

また、平成23年4月に設置された子どものこころの診療部とも外来・入院治療において密な連携をとっている。小中学生の入院治療では院内学級（福井県立福井東特別支援学校五領分教室）の利用や、ベッドサイドでの学習も行われている。神経発達症児者や虐待待児者に認められるトラウマに対してはEMDR（眼球運動による脱感作と再処理法）をはじめとするトラウマ治療も行っている。当院は福井県下の他病院（精神科、小児科）とともに福井県子どものこころ専門医研修施設群として、子どものこころ専門医を育成していく研修カリキュラムを行っている。



当教室のホームページもご覧ください。

(4)研究内容

Ⅰ 児童・青年期の精神医学研究

課題 1	自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如多動症（ADHD）の子どもから大人までの連続性についての検証
課題 2	ASD、ADHD、摂食障害の脳画像研究
課題 3	ASD、ADHDのバイオマーカーの探究、視線計測研究による早期発見・介入
課題 4	ASD、ADHDの認知機能調査調査
課題 5	ASDの社会的コミュニケーション能力の検証
課題 6	ASDの感覚特徴の探求
課題 7	児童・青年期の不安への認知行動療法
課題 8	児童・青年期への音楽療法
課題 9	ディスレクシア（読字障害）の読み困難の探求
課題10	新型コロナウイルス感染症環境下での精神神経疾患

Ⅱ ヒト高次脳機能および精神神経疾患の脳機能画像（VBM, fMRI, DTL, MRS）

課題 1	健常人の高次脳機能の画像化（正常発達過程、加齢変化、感情、記憶、注意、認知機能など）
課題 2	精神神経疾患（ASD、ADHD、統合失調症、気分障害、アルツハイマー病）の脳構造研究（MRI：皮質体積、皮質表面積、皮質厚、白質神経線維走行）
課題 3	課題（表情認知、自己認知、相互模倣、共同注視、文章理解、記憶、身体的疼痛、精神的疼痛、共感）を用いた精神神経疾患の脳機能研究（functional MRI）
課題 4	精神神経疾患の臨床核医学研究（PET：アミロイドイメージング、各種受容体イメージング）
課題 5	脳波を用いた精神神経疾患における神経ネットワーク解析
課題 6	tDCS（経頭蓋直流刺激）を用いた高次脳機能の影響の解明、精神神経疾患への治療的アプローチ

Ⅲ 精神神経疾患の基礎研究

課題 1	うつ病モデルラットにおける中枢神経系の神経可塑性および酸化ストレス定量評価（うつ病の病態メカニズムの解明）
課題 2	autoradiography（ARG）法によるマウス脳スライスイメージング

Ⅳ 精神療法研究

課題 1	症例に即した認知療法の理論と実際
課題 2	オープンダイアログ（開かれた対話）を用いた精神療法の検討

(5)教室の特徴

- 2018年に着任した若い教授を始め、情熱あふれる医局員で構成される。
- 関連病院が多い（福井県内のほぼすべての精神科医療機関および精神保健福祉機関に医師を派遣している）、特に福井県地域医療の中核となる福井県立病院にはこころの医療センターセンター長含め11名の精神科医を派遣している。
- 県内の精神医療の中心的役割を果たし、地域の精神医療機関とのネットワークが良好。
- 生物学的な臨床研究が盛んで、学内（子どものこころの発達研究センター、高エネルギー医学研究センター）や学外の実施設との共同研究が活発である。
- 日本精神神経学会の精神科領域専門医研修プログラムにて、地域精神医療、精神救急、身体合併、自殺対策など幅広い研修が可能。
- 子どものこころの発達研究センター地域こころの支援部門（杉山登志郎客員教授）と強く連携し、児童青年精神医学領域の高度な研修を受けられる。
- 北信がんプロ（がん専門医療人材養成プラン）、北陸認プロ（認知症プロフェッショナル医養成プラン）、連合小児発達学研究科にも参画している。

(6)教室員の構成

主な教室スタッフ

教 授	小坂 浩隆
准教授	大森 一郎
医局長	大森 一郎
講師(外来医長)	水野 智之
講師(病棟医長)	上野 幹二

在院教室員数

男性	15名	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
女性	3名	● ● ●
ほか関連病院勤務 男性49名、女性12名		
ほか福井県内でのクリニック開業医 男性7名、女性1名		

卒業大学の内訳

福井大学／62名	金沢大学／4名	金沢医科大学／4名	名古屋市立大学／3名
三重大学／2名	旭川医科大学／1名	岩手医科大学／1名	群馬大学／1名
獨協医科大学／1名	東京大学／1名	東京慈恵会医科大学／1名	昭和大学／1名
滋賀医科大学／1名	山梨医科大学／1名	信州大学／1名	富山医科薬科大学／1名
愛知医科大学／1名	和歌山県立医科大学／1名	兵庫医科大学／1名	川崎医科大学／1名
高知大学／1名	福岡大学／1名	鹿児島大学／1名	琉球大学／2名

近年の入局者数

年 度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
人 数	4	2	1	3	5	4	5	5	5

教室員募集

定 員：8名 出身大学は問いません。

申込締切：当院の締切に準ずる

選考方法：面接。いつでも診療場面を見学にいらしてください。

説明会の日時、場所、申込の締切：希望者には適宜連絡します。まずはご連絡下さい。

連絡先：大森 一郎（医局長） omoriim@u-fukui.ac.jp

小坂 浩隆（教授） hirotaka@u-fukui.ac.jp

TEL 0776-61-8363（医局直通）

専門研修
プログラム

年 数	プログラム	大学院進学
1 年目	初期研修	
2 年目	初期研修	
3 年目	教室勤務（関連病院には非常勤勤務）、各学会・研修会に参加	可 能
4 年目	教室勤務（関連病院には非常勤勤務）または連携施設勤務、各学会・研修会に参加	可 能
5 年目	教室勤務（関連病院には非常勤勤務）または連携施設勤務、各学会・研修会に参加	可 能
6 年目	教室勤務（関連病院には非常勤勤務）または関連病院勤務 精神科領域専門医取得、精神保健指定医取得	可 能
7 年目以降	教室勤務（関連病院には非常勤勤務）または関連病院勤務 各サブスペシャリティ領域専門医取得 学位取得（大学院入学時期や成績によって早期取得も可能）	可 能

経験できる臨床症例

- ・器質性精神障害（認知症、せん妄、器質性脳疾患 等）
- ・物質使用障害（アルコール・薬物の中毒、依存 等）
- ・統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害
- ・気分障害（うつ病、双極性障害 等）
- ・神経症性障害（不安障害、強迫性障害、適応障害、解離性障害、転換性障害、身体表現性障害 等）
- ・摂食障害
- ・睡眠障害
- ・産褥に関連した精神及び行動の障害
- ・パーソナリティ障害
- ・知的障害
- ・神経発達症（自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、学習障害 等）
- ・児童思春期精神障害（チック、選択性緘黙、愛着障害、トラウマ 等）
- ・精神科救急（精神的な混乱、パニック障害、自殺未遂）

経験できる特殊な治療、検査

- ・治療抵抗性統合失調症のクロザリル治療
- ・電気けいれん療法
- ・終夜睡眠ポリグラフ検査
- ・PET/MR アミロイドイメージング 等 核医学検査

経験できるチーム医療

- ・精神科リエゾンチーム
- ・緩和ケアチーム
- ・認知症ケアチーム

1. 理念

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 特徴

福井大学精神医学教室は昭和58年に開講した新しい教室であるが、福井県下のほぼ全域や県外の隣接地域の精神医療が同門によって担われており、地域の精神科医療の中核となっている。関連病院が豊富であり、地域の医療機関とのネットワークが良好で、「互いに顔の見える医療環境」に恵まれている。

研修基幹施設である福井大学病院神経科精神科は開放病棟と閉鎖病棟から構成され、個室、隔離室、観察室も充実している。また、認知症ケア、リエゾン、緩和ケアなどのチーム医療に参加するなど、総合病院における精神医療に貢献している。専攻医は上級医によるマンツーマン指導のもとで入院患者を担当する。一般的な症例や他職種医療者とのチーム医療はもちろん、難治性うつ病などに対する電気けいれん療法や、治療抵抗性統合失調症のクロザリル治療、ビデオモニター可能な終夜睡眠ポリグラフィ専用個室におけるてんかんや睡眠障害の精査なども経験が可能で、ほぼすべての症例に対応できる基礎的な知識を身につけていく。さらに、福井大学精神医学教室ならびに関連病院の特徴的な取り組みとして、精神医学と密接に関連する画像医学の研究施設である本学高エネルギー医学研究センターとは、開設された当初から共同研究を続けていること、北米型ERを進める当院救急部と定期的にカンファレンスを開催していること、などが挙げられる。専攻医は希望に応じて、これらにカンファレンスや臨床研究にも参加することができる。

研修連携施設は、それぞれ福井県嶺北地域・嶺南地域の主要医療機関である福井県立病院および杉田玄白記念公立小浜病院、単科精神科病院であり急性期治療から社会復帰まで広くカバーする松原病院、認知症の専門医療機関である福井県立すこやかシルバー病院の4病院である。これらの医療機関をローテートすることで、専攻医は専門医に必要な経験をもれなく積んでいくことができる。

専門医取得後は、研修施設群の病院はもちろん、それ以外の病院にも勤務して希望した分野の知識をさらに深めていく。また、福井大学精神医学教室は臨床研究だけでなく、動物モデル等を用いた基礎研究にも臨床に応用できるようなテーマを中心に取り組んでいる。大学院入学や学位取得へのサポートも万全な体制をとっている。専門医取得後の留学も奨励しており、経験者は領域の視野を深め、外国での生活・人的交流など貴重な体験をしている。当プログラムは専門医取得がゴールではなく、その後の道もしっかりと拓かれているプログラムである。当院においては、日本総合病院精神医学会専門医、子どものこころ専門医が取得できる研修施設である。

4. 児童青年精神医学研修との連携

本学子どものこころの発達研究センター地域こころの支援部門（前：児童青年期こころの専門医育成部門、杉山登志郎客員教授）と強く連携し、児童青年精神医学領域の高度な研修も同時に受けられる。精神科一般診療のスペシャリストの称号である精神保健指定医ならびに日本精神神経学会専門医の取得を目指しながら、国内随一の児童青年精神医学領域の研修も重ねて受けられ、子どものこころ専門医・日本児童青年精神医学会認定医などの同時取得も目指せる研修プログラムが確立している。

指導体制

指導医（教授、准教授、講師）および上級医（助教）が指導にあたる。

入院患者の診療においては数名で構成されるチーム医療で行う。

連携施設では、日本精神神経学会専門医等による指導が受けられる。

関連病院等

常勤医派遣病院

福井県立病院こころの医療センター (福井市、198床)	福井県立すこやかシルバー病院 (福井市、100床)	福井県済生会病院 (福井市、全診療科470床)
福井厚生病院ストレスケアセンター (福井市、50床)	松原病院 (福井市、260床)	福井病院 (福井市、212床)
福仁会病院 (福井市、255床)	三精病院 (福井市、120床)	みどりヶ丘病院 (鯖江市、222床)
武生記念病院 (越前市、186床)	市立敦賀病院 (敦賀市、全診療科350床)	猪原病院 (敦賀市、111床)
たけとう病院 (勝山市、135床)	加賀こころの病院 (石川県、207床)	丘の上病院 (石川県、100床)
魚津神経サナトリウム (富山県、150床)	福井赤十字病院 (福井市、全診療科630床)	

非常勤医派遣病院

大滝病院 (福井市、全診療科102床)	国立病院機構敦賀医療センター (敦賀市、全診療科273床)	敦賀温泉病院 (敦賀市、120床)
杉田玄白記念公立小浜病院 (小浜市、100床)	矢後病院 (富山県、95床)	



留学先

米国カリフォルニア大学
英国ロンドン大学
スウェーデン王国ウプサラ大学
米国オレゴン大学
米国アーカンソー大学
米国国立衛生研究所（NIMH）
米国ピッツバーグ大学

認定医・指導医の取得状況

職 名	氏 名	認定医・指導医等の名称
教 授	小坂 浩隆	医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医 日本総合病院精神医学会専門医 日本総合病院精神医学会指導医 日本総合病院精神医学会評議員 日本臨床神経生理学会認定医 日本ADHD学会理事 日本児童青年精神医学会理事 日本児童青年精神医学会認定医 日本児童青年精神医学会代議員 子どものこころ専門医 子どものこころ指導医 日本摂食障害学会評議員 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 クロザリル登録医師 ADHD適正流通管理システム登録医師 モディオダール適正使用委員会登録医師 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医 共用試験医学系臨床実習後OSCE認定評価者
准教授 医局長	大森 一郎	医学博士 精神保健指定医 精神保健判定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医 日本総合病院精神医学会特定指導医 DPAT先遣隊隊員 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 クロザリル登録医師 ADHD適正流通管理システム登録医師 モディオダール適正使用委員会登録医師 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医
講 師 外来医長	水野 智之	医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医 日本総合病院精神医学会専門医 日本総合病院精神医学会指導医 オープンダイアログ基礎トレーニングコース第2期(ODNJP開催)修了 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 クロザリル登録医師 ADHD適正流通管理システム登録医師 モディオダール適正使用委員会登録医師 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医
講 師 病棟医長	上野 幹二	医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医 クロザリル登録医師 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医 共用試験医学系臨床実習後OSCE認定評価者

助 教	眞田 陸	精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医 日本児童青年精神医学会認定医 子どものこころ専門医 子どものこころ指導医 ペンシルバニア大学公認PTSDのためのPE療法研修会修了 クロザリル登録医師 ADHD適正管理流通システム登録医師 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医
助 教	石橋 知明	精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 法務博士 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医
助 教	幅田加以瑛	医学博士 日本精神神経学会専門医 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 クロザリル登録医師 モディオダール適正使用委員会登録医師 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医
助 教	福元進太郎	精神保健指定医 ICLS(Immediate Cardiac Life Support)認定インストラクター 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 臨床実習前OSCE認定評価者 ADHD適正流通管理システム登録医師 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 電気けいれん療法講習会修了
助 教	今成 英司	医学博士 小児科専門医 生命科学修士 農学学士 ADHD適正流通管理システム登録医師 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 電気けいれん療法講習会修了
講 師 (保健管理 センター講師)	岡崎 玲子 (4人の子育て中)	医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 クロザリル登録医師 ADHD適正流通管理システム登録医師 電気けいれん療法講習会修了
非常勤	松村由紀子 (3人の子育て中)	精神保健指定医 日本精神神経学会専門医 日本精神神経学会指導医 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 クロザリル登録医師 ADHD適正流通管理システム登録医師 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医

	非常勤	武藤 悠平	精神保健指定医 緩和ケアおよび精神腫瘍学の基本教育に関する指導者 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究プロジェクト講習会修了 ADHD適正流通管理システム登録医師 モディオダール適正使用委員会登録医師 電気けいれん療法講習会修了 卒後臨床研修指導医
--	-----	-------	--

女性医師の 結婚・産休 について

厚生労働省は2018年より女性医師が働きやすい環境づくりをしています。精神科領域は、子育てや家族の介護など家庭の事情も考慮される診療科の対象になっています。

当教室では、勤務体制を配慮しながら、女性医師の結婚・産休・育休を応援しております。大学・関連病院に3人以上の子育てをしながら常勤で勤務されている女性医師が4名もおります。ママさん先輩医師の声を聞きにいらしてください。

問い合わせ先

福井大学医学部 精神医学
 連絡先：大森 一郎（医局長） omoriim@u-fukui.ac.jp
 小坂 浩隆（教授） hirotaka@u-fukui.ac.jp
 TEL 0776-61-8363（医局直通）
 当教室のホームページもご覧ください。



